

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32608

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10729

研究課題名（和文）虚血性心疾患における性差を考慮した日本型循環器看護モデルの構築

研究課題名（英文）Development of Japanese Model for Cardiovascular Nursing Considering Gender Differences for Female Patients with Ischemic Heart Disease

研究代表者

山田 緑（YAMADA, MIDORI）

国立女子大学・看護学部・教授

研究者番号：00339772

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、虚血性心疾患をもつ女性の生活の質向上を目指した日本型の循環器看護モデルの構築を行った。教育教材として、性差を考慮したパンフレットを作成し、臨床実践に適用できるように内容および妥当性について検討を行った。また、実際に循環器内科外来に通院する虚血性心疾患女性患者を対象とした横断的質問紙調査を行った。その結果、パンフレットの有用性は評価されたが、文字の大きさや情報量には改善点のあることが分かった。使いやすさの課題を克服することで、女性患者への性差を考慮したより質の高い支援が期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、性差医療の考えを基盤に、生活習慣の是正が求められる虚血性心疾患患者に焦点を当て、日本女性のライフサイクルにおける多義的な特徴を考慮に入れたケアについて明らかにしようとするものであり、この分野における先駆的な研究といえる。本研究結果から作成された教育教材は、日本人女性の社会・文化的特徴などを考慮した支援プログラムの構築につながるものである。今後、さらに臨床適用するプロセスで、虚血性心疾患女性患者が治療を継続しつつ生活の質を維持・向上できるような看護師の役割を提示することができるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The present study aimed to construct of Japanese model for cardiovascular nursing for improvement ischemic heart disease female patient's quality of life. We created an educational pamphlet considering gender differences, the cardiovascular nursing brochure was considered contents and validity to apply clinical practice. Cross-sectional questionnaire survey of female patient who attend the department of cardiovascular medicine as outpatients was conducted. The usefulness of the cardiovascular brochure was evaluated, but issues with font size and amount of information were identified. By overcoming the usability issues, the pamphlet should be effective considering gender differences for female patients with ischemic heart disease, improve quality of life.

研究分野：医歯薬学

キーワード：虚血性心疾患 性差 日本型循環器看護モデル

## 1. 研究開始当初の背景

欧米において虚血性心疾患は中高年女性の死因の第一位を占めており、わが国においても人口の高齢化とライフスタイルの欧米化により、虚血性心疾患をもつ女性が増加傾向にある。虚血性心疾患は、生涯に渡って生活の自己管理が必要であり、再発へのストレスや不安から QOL が低下しやすいと言われている。しかし、わが国において、女性は男性と比較して虚血性心疾患の発症が少ないため、女性患者に焦点を絞った看護研究は未だ少なく、虚血性心疾患女性患者の実態は明らかでない。日本人は欧米人と様々な点で異なるため、欧米のエビデンスをそのまま適応するのではなく、日本人独自の科学的根拠が必要である。よって、本研究では、女性の身体・心理・社会的特性に着目しながら、虚血性心疾患における日本型の循環器看護モデルを構築し、性差を考慮した女性患者への支援のあり方について検討することとした。

本研究は、性差医療の考えを基盤に、生活習慣の是正が求められる虚血性心疾患患者に焦点を当て、日本女性のライフサイクルにおける多義的な特徴を考慮に入れたケアについて明らかにしようとするものであり、この分野における先駆的な研究といえる。性差医療 (Gender-specific Medicine) とは、男女比が圧倒的にどちらかに傾いている病態、発症率はほぼ同じでも男女間で臨床的に差を見るもの、いまだ生理的・生物学的解明が男性または女性で遅れている病態、社会的な男女の地位と健康の関連などに関する研究を進め、その結果を疾病の診断・治療法・予防措置へ反映することを目的とした医療改革である<sup>1)</sup>。性差医療のベースとなる性差医学 (Gender-based Biology) は、学問としての誕生そのものが極めて新しく、今後の循環器看護分野における基礎・臨床研究への新しい視点を提供するものとなるため、非常に独創的であると考えられる。本研究結果から構築される援助モデルは、日本人女性の社会・文化的特徴やパーソナリティなどを考慮した支援方法を生み出すものとなり、そこから抽出された看護援助はわが国で有効な介入となり社会的にも大きな意味をもつものとなるのではないかと思われる。このようなモデルを考案し、それを臨床適用するプロセスにおいては、虚血性心疾患女性患者が治療を継続しつつ生活の質を維持・向上できるような、新しい看護師の役割を提示することができると考える。

## 引用文献

- 1) 天野恵子・山口徹(2006). 性差からみた女性の循環器疾患診療, メジカルビュー社.

## 2. 研究の目的

欧米において、虚血性心疾患は中高年女性の死因の第一位を占めている。米国においては、AHA (米国心臓協会) が、女性のための心血管疾患予防ガイドラインを発表する<sup>1)</sup>など、虚血性心疾患の女性患者に関する研究が盛んに行われている。わが国においても、人口の高齢化とライフスタイルの欧米化により、虚血性心疾患をもつ女性が増加傾向にある<sup>2)</sup>。虚血性心疾患は、急性期を脱し医療施設を退院すると、それ以降生涯に渡って生活の自己管理が必要であり、再発へのストレスや不安から QOL が低下しやすいと言われている。その中で男女別にみると、患者それぞれのストレスや不安などには差異があることが指摘されている。ガイドラインによると<sup>3)</sup>、虚血性心疾患はその発症頻度に男女差があるだけでなく、自覚症状や予後にも性差があることが報告されている。具体的には、糖尿病や脂質異常症等の冠危険因子は女性に多く、女性の方が男性よりも予後が不良であること、女性は男性と比べて不安や抑うつ傾向が強いこと、女性は虚血性心疾患の典型的症状 (胸痛、胸部圧迫感等) を示すことが少ないことなどが分かっている。また、日本性差医学・医療学会では、日本人の人種的特徴やわが国の社会的・文化的背景を踏まえた上で、虚血性心疾患における性差に基づく研究・医療が必要であると提言している<sup>4)</sup>。申請者が以前実施した調査<sup>5)</sup>では、虚血性心疾患患者の運動療法に対する取り組みに男女差のあることが見出されているが、女性患者特有のセルフケア行動やその実態についてはいまだ明らかとなっていない。よって、本研究では対象を虚血性心疾患女性患者に絞り、女性の身体・心理・社会的特性に着目しながら、日本型の循環器看護モデルを構築し、性差を考慮した女性患者への支援のあり方 (Gender-specific-cardiovascular nursing) について検討していくことを目的とした。

## 引用文献

- 1) Mosca L., Benjamin E.J., Berra K. et al. (2011). Effectiveness-based guidelines for the prevention of cardiovascular disease in women 2011 update: A guideline from the American Heart Association. *Circulation*, 123(11), 1243-1262.
- 2) 厚生労働省(2019). 令和元年度人口動態統計.  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suikei19/>, Sep 17, 2020.
- 3) 循環器病の診断と治療に関するガイドライン(2008-2009 年度合同研究班報告) (2010). 循環器領域における性差医療に関するガイドライン.  
<https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/02/JCS2010tei.h.pdf>, Oct 8 2020.
- 4) 日本性差医学・医療学会(2016). わが国における女性の虚血性心疾患の克服に向けた日本

性差医学・医療学会からの声明。

<http://www.jagsm.org/pdf/seimei160224.pdf>, Oct 1, 2012.

5) 山田緑・小松浩子(2007). 虚血性心疾患患者の運動の継続に影響する要因の検討, 聖路加看護学会誌, 11(1), 53-61.

### 3. 研究の方法

本研究では、虚血性心疾患患者を対象として、性差を考慮した女性への支援のあり方について検討するために、基礎調査として虚血性心疾患女性患者を対象に統合的文献レビューを実施し、女性特有の健康状況やストレス対処法、周囲からの支援を質的に明らかにした。また、そこから抽出された内容および要素から質問紙を作成し調査を実施することを通して、循環器看護モデルを構築することを目指した。その過程では、研究施設との連携・協力のもと、臨床適用のできる支援プログラムの作成を行い、その有用性について検証した。具体的な研究内容および方法は以下の通りである。

(1) わが国における虚血性心疾患女性患者の身体・心理・社会的な特徴を明確にするため、これらの対象の置かれている状況を文脈 (context) として捉え、様々な個人史をもち社会や文化から影響を受けている女性患者の経験について調査し文献的考察とともに分析を行う。

(2) 上記の基礎研究の結果から、虚血性心疾患女性患者の身体・心理・社会的特性に着目しながら、循環器看護分野における支援プログラム試案を作成した。支援プログラムとして、教育教材パンフレットを作成し、臨床実践に適用できるように、調査施設の医師や看護師を中心としたワーキンググループを形成しディスカッションを行った。循環器専門医や臨床看護師、研究者などを対象に、教育教材パンフレットの妥当性ならびに適切性に関して評価を行った。

(3) 外来に通院する虚血性心疾患女性患者を対象に、質問紙調査を通して定量的・定性的な評価を行った。これらの結果に基づき、支援プログラムの有用性を検討し、性差を考慮した虚血性心疾患女性患者への支援のあり方について探求した。

対象者：

循環器内科外来に受診した虚血性心疾患女性患者 30 名程度とした。人数の妥当性としては、ユーザ - テストによりユーザビリティ問題の 85%が発見できるサンプル数を設定した。

調査項目：

a. 対象者の基本情報：年齢、既往歴、治療内容、罹患期間とした。

b. 教材の評価：教材の見やすさ・使いやすさ・理解のしやすさなどの 5 段階評価、9 項目と自由記載の合計 10 項目からなる無記名のアンケートを用いた。

データ収集方法：

研究参加の同意を得た後に、研究者が a. 教育教材 (パンフレット) b. 調査手順を示した用紙、c. アンケート用紙を対象者へ配布した。対象者には教育教材の内容を確認してもらい、アンケートに回答してもらった。アンケートは、対象者が自由意思に基づいて提出できるように、配布した用紙に直接回答のうえ回収箱へ提出してもらった。患者の基本情報に関しては、研究者が診療カルテより情報収集を行った。

データ分析方法：

アンケートで得られたデータは、統計ソフト IBM SPSS Statistics 25.0 を用いて、アンケート結果の平均値・標準偏差を抽出しグラフ化して記述統計により分析を行った。また、自由記載の項目で得られた質的データに関しては、分析の信頼性を確保するため専門家のスーパーバイズを受けた上で内容の分析を行った。

### 4. 研究成果

初年度である 2021 年度は、統合的文献レビューを実施し、虚血性心疾患女性患者の特性に関して、そのパーソナリティや社会的・文化的特徴、身体的特徴を関連文献から探求した。その結果、女性は男性よりライフサイクルに伴う変化が生じやすく、妊娠・出産・育児などのイベントが関与していること、また、閉経後の影響が大きいことなどが分かった。ライフスタイルとしても、男性に比べ、女性は運動習慣および運動量が少なく、肥満になりやすいこと、精神面でも心筋梗塞後の女性においてうつ病の発生頻度が高く、より重症で罹患期間が長いことも明らかとなった。コロナ禍にて、実際の虚血性心疾患女性患者を対象とした半構造化インタビュー調査は実施できなかったが、統合的文献レビューから虚血性心疾患女性患者の身体・心理・社会的特性の把握および主要概念の抽出、文献的考察を進めた。

2022 年度は、文献的考察とともに抽出された主要概念をもとに、教育プログラム試案を作成し、日本型循環器看護モデルに必要な要素の抽出および内容の構造化を行った。基礎調査から抽出された身体・心理・社会・文化的側面からの特徴を反映した内容および要素をもとに、支援プログラム試案を構築し、専門家との検討を通して、虚血性心疾患女性患者に特化したパンフレットを開発した。また、研究施設との連携・協力のもと、臨床適用のできる支援プログラムの作成を行いその有用性について検証した。

最終年度である 2023 年度は、臨床適用に向けた検討を行いながら、研究分担者を追加し虚血性心疾患女性患者を対象とした支援プログラムとして教育用パンフレットを洗練し、その有用性を検証した。パンフレットに関しては、教育教材として臨床実践に適用できるように調査施設の医師や看護師と内容および妥当性について検討を行い、実際に循環器内科外来に通院する虚

血性心疾患女性患者 31 名を対象とした質問紙調査を実施した。その結果、10 項目 5 段階評価にて、見やすさ  $4.16 \pm 0.90$ 、文字の大きさ  $3.67 \pm 1.04$ 、情報量  $3.87 \pm 0.99$ 、病気やリスクファクターへの理解  $4.07 \pm 0.65$ 、女性特有の症状への理解  $4.07 \pm 0.69$ 、治療法への理解  $4.07 \pm 0.68$ 、日常生活への理解  $4.07 \pm 0.68$ 、活用度  $4.03 \pm 0.66$ 、使いやすさ  $4.07 \pm 0.85$  であった。全体的に平均値は高く、内容や見やすさ、使いやすさは評価された。一方で、自由記載の内容等から、文字の大きさや情報量には改善点のあることが分かった。

虚血性心疾患に関する先行研究を概観すると、ほとんどが多数の男性患者を対象とした調査結果となっている。また、心臓リハビリテーション(以下、心リハとする)は、患者の運動耐容能ばかりでなく生命予後や QOL をも向上させることが明らかとなっているが、多くの心リハプログラムは男性を対象とした臨床試験に基づいた内容であり、そのようなプログラムが女性にも運用されている状況である。しかし、プログラムの有用性や妥当性についてはこれまで評価されることが少なく、欧米のみならずわが国においても、女性患者の心リハへの参加率の低さやプログラムからの脱落が大きな問題となっており、現在のところ女性に特化したアプローチや看護援助の方法などは確立されていない。海外では、従来 of 古典的なプログラムではなく、性差を考慮した看護介入プログラム (gendertailored program) を実施し、女性患者における深刻なうつ状態を改善したという報告がみられる。わが国においても、日本人女性の身体・心理・社会的特性に応じたプログラムを構築することが急務であり、今後性差を考慮した女性患者への看護支援を検討していく必要があると考える。本研究で導き出されたプログラムに関しては、今後も医療者とともに専門的な検討を行いながら、日本型循環器看護モデルとして活用できるように、内容の修正および構造化を行い、臨床適用を目指していくことが課題である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山田緑	4. 巻 36 (1)
2. 論文標題 オープニングセッション 循環器ケアにかかわる皆さんに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ハートナーシング	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田緑	4. 巻 36 (2)
2. 論文標題 2021年改訂版 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドラインのポイント (前編)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ハートナーシング	6. 最初と最後の頁 88-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田緑	4. 巻 36 (3)
2. 論文標題 2021年改訂版 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドラインのポイント (後編)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ハートナーシング	6. 最初と最後の頁 78-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林千尋, 山田緑	4. 巻 19 (2)
2. 論文標題 急性心不全患者のうつ病合併と関連要因の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東邦看護学会誌	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14994/tohokango.19.2.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山田緑
2. 発表標題 循環器看護をつなぐ
3. 学会等名 第20回日本循環器看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤野紀之, 山田緑
2. 発表標題 循環器ナースが知っておくべき不整脈領域の知識と不整脈チームとして機能のしかた
3. 学会等名 第20回日本循環器看護学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山田緑
2. 発表標題 心臓リハビリテーション外来通院中の虚血性心疾患患者の精神的健康度とその関連要因
3. 学会等名 第27回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田緑
2. 発表標題 最新のエビデンスからみた看護師が行う心臓リハビリテーション
3. 学会等名 第27回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田 緑
2. 発表標題 カテーテルアブレーションを受ける心房細動患者の治療前から治療後におけるQOLと関連要因の検討
3. 学会等名 第18回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤野 紀之  (FUJINO TADASHI)  (60385870)	東邦大学・医学部・准教授    (32661)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関